

一般質問に入る前に、12月5日発生いたしました田伏県営住宅の火災について、行政側から発言を求められておりますので、この際これを許します。

斉藤産業部長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

産業部長（斉藤隆一君）

おはようございます。

本会議前の貴重な時間をおかりして、去る12月5日、先週土曜日ですけれども発生しました、市が管理する県営田伏住宅の火災について報告いたします。

県営田伏住宅C24号から出火。近隣住宅の入居者から、13時13分に消防へ通報が入り、消防が出動したものであります。

火災発生の原因は、台所のてんぷら油に火が入り、出火したものであります。消防への通報とほぼ同時に、入居者自身が住宅に備えつけの消火器により消火。消防車両が到着したときには、既に鎮火しておりました。被害の状況としては、けが人はなく、台所の電気、設備機器等の破損であります。

年末を控え、火を使う機会がふえることから、県営住宅をはじめ、市の管理する公営住宅入居者に対し、火災予防の周知徹底を図ってまいります。

以上で、報告を終わります。

+

日程第2．一般質問

議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

4日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

おはようございます。

糸魚川21クラブの田原 実です。

発言通告書に基づき、質問をいたします。

1、市役所職員の市民への対応について。

(1) さまざまな公共施設でのそれぞれの市職員対応について伺います。

(2) 障害を持つ人への対応について伺います。

(3) 赤ちゃん、子供を連れた人への対応について伺います。

(4) 市職員の「コミュニケーション能力」、「問題解決能力」向上について伺います。

この質問の趣旨は、明るい市役所、市施設と市民に感じてもらうには何をしなければいけないか、市民に信頼される市職員になるには、何をすべきかということです。

2、糸魚川ジオパークの災害対応について。

- (1) 地震災害への対応、昨年の長野県北部地震の教訓について伺います。
- (2) 火山噴火災害への対応、焼山災害避難訓練の反省点について伺います。
- (3) 自助、共助、公助の市民理解について伺います。
- (4) ジオパークのユネスコ認定と自然災害教育の促進について伺います。

この質問の趣旨は、豊かな自然や地質資源に囲まれているということは、同時に自然災害に巻き込まれるリスクも高い。市民みずからが、命を守るための知識と行動を習得し、訓練に参加して災害に備えてもらうには、何をすべきかということです。

3、糸魚川地域の特性をいかした農業、林業、漁業、ものづくり、環境、自然エネルギー、観光等、地域産業振興と若者就労について。

- (1) 糸魚川地域で取り組むべき農業と若者就労について伺います。
- (2) 糸魚川地域で取り組むべき林業と若者就労について伺います。
- (3) 糸魚川地域で取り組むべき漁業と若者就労について伺います。
- (4) 糸魚川地域で取り組むべきものづくりと若者就労について伺います。
- (5) 糸魚川地域で取り組むべき環境産業と若者就労について伺います。
- (6) 糸魚川地域で取り組むべき自然エネルギー産業と若者就労について伺います。
- (7) 糸魚川地域で取り組むべき観光産業と若者就労について伺います。
- (8) 糸魚川市内の中学・高校での地域ビジネスモデル教育について伺います。
- (9) 糸魚川で学びたい、働きたい人の市外での募集や発掘について伺います。
- (10) 糸魚川で学びたい、働きたい人の受け入れ、糸魚川市独自の取り組みについて伺います。

この質問の趣旨は、都会や他市にはない、糸魚川の環境の特性と魅力を使った産業の創造と振興に努め、若者の仕事をつくり定住を促すには、地方自治体は何をすべきか、行政は何をすべきかということです。

今、地方自治体は、地方創生の具体策を明らかにするよう、国から求められています。国は、3つのポイントを示しています。1つは、若者の就労・結婚・出産の支援。次に、東京への一極集中の是正。そして、地域の特性の尊重、すなわち地域の個性の活用です。

これは、糸魚川市でもこれまで取り組んできたものの、際立った成果が見られない長年の課題でした。ただ、他の自治体の挑戦と行動が、消滅の危機に瀕する地域をよみがえらせた例を知れば、より条件のよい糸魚川が活性化しないのはなぜか。結果を出す努力が、まだ足りないのではないかとこの思いに駆られます。

地方創生は、行政だけでできるものではありません。しかし、地方の存続対策は待ったなしです。地方自治体は、みずから改革し自主的に動き出すことが必要です。

市長、行政の知恵と行動力を、市民に示すご答弁をお願いいたします。

以上、1回目の質問です。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、施設を訪れる皆様が、気持ちよくご利用いただけるように対応する旨、職員に指導いたしております。

2点目、3点目につきましては、相手の立場に立って、適切な対応を心がけております。

4点目につきましては、さまざまな研修等に参加することにより能力向上を図っており、さらなる研さんを重ねてまいります。

2番目の1点目につきましては、大地震にもかかわらず死者が発生しなかったことから、地域コミュニティと共助の重要性を、再認識いたしたところであります。

2点目につきましては、3名が犠牲となった火山災害から40年が経過いたしましたでしたが、災害を振り返り、早川地区全域では初めてとなる住民避難訓練を実施し、特に上早川地区では住民の約半数が参加した意義は、大変、大きかったと考えております。

今回の訓練で課題となった情報伝達・避難方法等を検証し、避難計画に反映するとともに、今後も総合的な訓練を実施してまいります。

3点目につきましては、特に自助、共助の重要性を理解していただくとともに、自主防災組織化への取り組みを進めております。

4点目につきましては、日本ジオパークネットワークでは、防災も重要な要素の1つとして取り組んでおり、今回のユネスコ正式の事業化を機に、さらに学校や地域と連携をしながら積極的に取り組んでまいります。

3番目の1点目から3点目につきましては、地域資源や環境を最大限に活用するとともに、さらなる資源の掘り起こしなどにより、農林水産業の多様化と持続可能な産業構造への転換を図ることで、雇用の増加につなげてまいりたいと考えております。

4点目につきましては、当市の主要産業である建設業や製造業においては、近年、人材不足が顕在化していることから、地元企業の魅力を若者に伝えていくことが大切だと考えております。

5点目と6点目につきましては、環境産業や自然エネルギー産業については、現在、当市での就業者は少なく、まずは産業の育成に取り組んでいく必要があると考えております。

7点目につきましては、現在、北陸新幹線開業にあわせ、ジオパークを核とした交流人口の拡大を目指しているところであり、これに伴い観光産業に従事する若者の就労の増加を期待いたしております。

8点目につきましては、中学校ではまちづくりへの提言・提案などをキャリア教育として実施いたしており、高校につきましては、産官学連携により地域資源を活用した高校の魅力向上に向けて支援をいたしております。

9点目につきましては、首都圏で開催される移住相談会や農業人フェア等に参加し、人材確保に取り組んでおります。

10点目につきましては、インターンシップ事業や大学と連携した集落活性化事業などの取り組みを行っており、それを進めていきたいと思っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、職員対応について、2回目の質問です。

職員の接客態度、要件の処理は、市民からよいと評価されているのでしょうか。また、それはどのようにチェックをされていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長（岩崎良之君）

おはようございます。

毎年、市民課と能生・青海事務所におきまして、窓口サービス満足度アンケートを実施しております。ことしも9月、10月に実施いたしております。お客様からのアンケート結果を見ますと、81%の方から満足・やや満足との回答をいただいておりますが、その一方で、約1%の方から不満・やや不満との回答をいただいておりますし、さらに電話や、ご意見直通便で苦情をいただくこともありますことから、一層の接遇向上に努める必要があるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

アンケートによれば、非常にいいということですね。私も、いいとは感じてるんです。それで、市民に親しまれ信頼される明るい市役所となるには、日ごろから、職員一人一人の接遇向上の心がけが必要だということで、そのマニュアル、それから訓練というものはどうなっているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長（岩崎良之君）

接遇の向上につきましては、糸魚川市が作成いたしました接遇ガイドブックで、職員に指導しております。接遇研修や職員サービス研修など、さまざまな機会に指導を行っておりますし、また朝礼時の挨拶唱和などを継続しておりますが、さらに周知徹底を図っていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番(田原 実君)

県内の三条市は、接遇マニュアルを策定し、その冒頭で「お客様からよい・満足とじていただけるよう、職員の指導徹底を行っていきます」というふうに出ているんですね。

ここで、市民と言わず、「お客様」というふうに出ているんですけども、糸魚川市の職員育成の手引きでは、どういうふうになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長(岩崎良之君)

当市における接遇ガイドブックの中でも、「お客様」と表記させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

三条市の接遇マニュアルでは、「思いやり接遇」として、ハンディキャップを持つ方や高齢者、小さい子供さんを連れた人との対応を解説をしています。糸魚川市の施設では、どのような対応になっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長(岩崎良之君)

当市の接遇ガイドブックの中でも、お年寄りや体の不自由な方への対応も掲載しており、「お客様との対応は、耳と目と心で聞く」と表記しておりますが、先ほども申しましたように、アンケートで、まだ悪いというご意見もいただきますことから、まだまだ積極的に行動できる職員ばかりだと思っておりますので、そのときの状況や、相手のことをよく考えて行動できる職員となるよう、指導に努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

きょうの質問のポイントは、そこにあるんです。

しばらく前の、糸魚川市民会館のコンサートで、視覚障害のある方が盲導犬を連れてホールに入ったところ、別室への移動を職員から指示されて、楽しみにしていた一流歌手の生の歌声や、会場の臨場感を味わうことができなかったということがありました。

なぜ、そのような対応になったのか。事前に連絡しなかった利用者に問題があったのか。盲導犬がホールにいと、ほかのお客様に迷惑がかかるというのか。利用規則というものがあるでしょうけども、管理者のほうに落ち度はなかったというふうには言えるのかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

糸魚川市民会館の開館以来、恐らく初めて、盲導犬を伴ったお客様をお迎えいたしました。リハールサルでは、ときにスモークがたかれたり、激しい照明、大音量もありました。また、盲導犬に対する知識不足もありまして、トラブルになってはいけないという思いから、市民会館ではお客様のご了解を得まして、親子ルームへ移動していただきました。

ただ、親子ルームがホールでの臨場感とは異なることについて、ご不満があったということから、後日、改めておわび申し上げるとともに、今後の利用について相談・協議をさせていただきました。その後、開催された講演会ではホール内の席をご利用いただいております。

盲導犬に対する認識が足りなかったことや、現場の経験不足から、ご迷惑をおかけしたと考えており、今後、かかることのないよう対応し、ステージをお楽しみいただけるよう努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

経緯をお話いただきましたし、また謝罪をしたということと、その後の対応は改善しましたよということなんですけども、ぜひ、庁内でこのことを共有していただいて、職員の皆さんお一人お一人が、こういった場合にどういった対応をするかということと、みずから考えていただきたいということで、今回の質問をさせていただきます。

障害を理由とする差別の解消の法律というものが、制定されました。

福祉事務所としては、ハンディキャップのある方への対応をどのように考えていますか。また、ハンディキャップのあるなしにかかわらず、福祉事務所を訪れる市民への対応。これに対しては、どのような心がけをしていったほうがいいのかというふうに考えているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

市民の方の中には、障害のある方もいらっしゃいますし、障害のない方もいらっしゃいます。また、年齢も高齢の方もいらっしゃいますし、小さいお子さんもいらっしゃいます。その方たち皆さんが、市役所に来られたときに、気持ちよく帰っていただけるような、そんな対応を心がけているところでございます。

また、障害者差別解消法が、来年の4月から施行されますことから、その解消法では差別的取り扱いの禁止と、合理的配慮義務というものが盛り込まれております。今後もさらに、市民の方の立

場に立ちまして、窓口対応をしてみたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

困ってる様子の方がいたら、声がけをするということが必要になってくるかと思えますんで、そこら辺、難しい面はありますけど、ひとつよろしくお願ひしたいと思えます。

私、市のさまざまな施設を伺いまして、そこでさまざまな接遇を体験いたします。

そこで、気になりますのは、窓口の前に立ってしばらく間を置いて、こちらから声をかけるまでパソコンにずっと向かって仕事をしている、仕事熱心な職員の方というものを見受けるんですけども、パソコンに向かって、私、今仕事しているから忙しいんですよという、そういうことをこちらのほうに伝えている面もあるかと思えますが、これは、尋ねる者にとっては非常に気を使うところであります。そういったところを、接遇の改善の余地はないのかなと思えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長（岩崎良之君）

そのようなことにつきましては、大変、申しわけございません。おわび申し上げます。

職員は、いかなる状況におきましても、お客様第一主義で対応することが大切だと考えておりますので、今のようなお話を聞いて、全職員に伝達する中で、接遇のさらなる向上に努めてまいりたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

はい、わかりました。

役所の窓口対応というのは、これはクレームが多いと思えます。私は、これを一時しのぎや我慢の場としてはいけないと思えます。苦情、それから同時に感謝ももらえる場所ではないかなというふうに思えます。

職員は、接遇を理解しその技術を身につけ、市民に親しまれ、信頼されるということも仕事ではないかと思えます。それは、職員の皆さんにとっては、公務員としての自己実現ということになるんじゃないでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長（岩崎良之君）

ご指摘のとおりだと思います。

そもそも、クレームをいただかないように努めなければいけません。お客様へのご不便、不快に感じられること、あるいはより改善すべき点についてはクレームやご意見になってまいりますので、そのクレーム等を解消し改善していくことが重要ですし、さらにその内容を課の全員や、関係する他課の職員で共有していくことが、市役所全体での意識を高めていくことが必要だというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市長の答弁では、研修等を重ねておりますというお話でございました。そこで、この機会に市の職員さんは、接遇の技術、それから心構えを身につけるために、こういったことを研修されているのかなというところに興味があるんですけども、このスキルアップをどのように図られていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長（岩崎良之君）

市職員の人材育成及び研修に関する基本方針に基づきまして、庁内、庁外で研修等を行いまして、計画的に取り組んでおります。

また、市の新しい取り組みへの理解も必要なことから、例えば本年度は全職員を対象に、総合戦略やマイナンバー関係の研修を継続しておりますし、そのような中で、継続して職員の意識を高めてまいりたいと思っておりますし、接遇の向上については、朝礼等で常に意識をしていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

職員の皆さんは、本当、糸魚川市の人材、宝物であります。地域に入っても、皆様の働きというものは非常に大きいと思います。それで、そういった接遇だけでなくコミュニケーション能力、それから問題解決能力のスキルというものを身につけていただきますと、これが仕事以外のところでも役立って、人から親しまれて信頼される技術だと思っておりますので、ぜひ、しっかりと身につけていただきまして、日本一の職員を目指していただきたいと思っております。

最後に、こども課の窓口について、1つ提言をいたします。

市役所の2階に、子育ての相談窓口があります。ただ、いかにも役所ですという感じのカウンターの前に、座らされての相談対応、これについては改善すべきことはないかということで、日本一の子供を育てるといえることが感じられるような窓口ということに、工夫をしていただけないかということなんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

おはようございます。

今、お話がありました、当こども課の窓口についてであります、カウンターの後ろのほうには、小さいお子様が、親御さんが手続中に安心して、目を離しても安全にいられるようにという遊び場の工夫はさせてもらっておりますが、カウンター自体は相談対応だけではなく、申請書の記載場所でもありますということで、少し殺風景に感じられたのかなというふうにも思っております。

また、節電ということもありまして、少し全体として暗いイメージがあるのも確かかと思っておりますので、今後、改善できるところは改善してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

確かに、私が伺ったときも、たまたまいつもなんですけど電気が消えてたりして、ちょっと暗いなという感じはしておりました。

育児相談の窓口でございますので、お母さん、若い女性が訪れるということから、センスよくサイン等も工夫していただきまして、また来たくなる雰囲気というものをつくるように、工夫が欲しいなというふうに考えるわけです。それも1つの接遇のデザインというものかと思っております。

そこで、このためのアイデアをワークショップなどで、庁内の若い職員さんとか女性職員の皆さんからいただく。使い勝手・雰囲気づくり・接遇の意見・アイデアということを募るということを行ってはいかがかと思っておりますけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

ご提言というふうに捉えまして、具体的にどこをどう改善できるかというところを、まずは課内、女性職員たくさんおりますので課内で検討し、それをまた、庁内でも評価していただいて改善につなげていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よろしく申し上げます。

災害対応の2回目の質問に移ります。

私は、昨年12月議会でも長野県北部神城断層地震と、糸魚川市の地震災害対応の質問をいたしました。

市長より、建物の耐震化、地震への心構え、共助の重要性を再確認したと。

消防長より、非常に近いところで発生した地震に、みんな驚いたと。今後、出前講座、地区の訪問懇談会、防災リーダー研修などで市民周知を図っていくと、答弁をいただいております。

私からは、現地の方から聞いた現場の生々しい状況をお話ししまして、参考になるので、ぜひ現地に行って、見て聞いて、調査・分析して、糸魚川市民にフィードバックしてほしいと要望をいたしました。

この1年間の取り組みと成果について、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

お答えします。

出前講座は、平成26年は28回、27年度は29回開催しておりまして、それぞれ約1,700人、1,800人の方々から参加をいただいております。

また、防災リーダー研修は、毎年開催しておりますけれども、本年3月に消防本部で50地区、約100人の方から参加をいただき、研修いただいております。

出前講座では、地震・津波・大雨による災害、土砂災害などについて周知するとともに、災害により、自分たちの地域は自分たちで守る。また、どこが危険なのかというようなことを知っていただくという取り組みについて、図面を用いた実践的な訓練を取り入れており、着実な防災に対する意識向上が図られているというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

一生懸命、取り組んでいただいております。

それで、この機会に、市長が重要と答弁しました共助の取り組みということなんですけど、市民の理解が進むように、この議会、中継をごらんになってる方もいらっしゃると思いますんで、この場でわかりやすく説明をしていただきたい、そのようにお願いしたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

3.11以降、市民の防災への関心は、出前講座の件数などからもうかがえます。

毎年、実施しております防災訓練では、特に要配慮者への支援について力を入れております。行政の役割といたしましては、市民一人一人が、自分たちの地域は自分たちで守るという意識のもと、自分たちは何をしなければならないのか、また何ができるかなどを考え、実行していただくための支援・働きかけであります。そして、行政もともに考えるということだというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

行政もともに考えるというふうに、ご答弁をいただいております。

去る10月10日に実施された、焼山の防災訓練。ここにおける行政の共助の役割ということについて、少し伺いたいと思うんですけども、行政もともに考えるという、その考えるということはどうだったのかということですね。行政もともに行動をして、そして何か結果を出すような訓練にしていかなければいけないのではないかとこのところから、伺いたいんですけども、先日の訓練における行政の共助の役割ということ、いま一度、伺いたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

今回の訓練は、避難場所や避難経路を確認していただくという住民避難訓練、それから関係機関との連携確認及び市の各部署の対応について重点を置き、実施したものであります。今後も訓練を継続し、特に共助につきましては要配慮者への支援について力を入れておりますが、今後も実践していただくよう、地区に働きかけるとともに、行政も対応してまいりたいというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

訓練に参加した市民の方から、私に寄せられた意見なんですけども、訓練の対象となった地域の小学校・保育園の子供は、言うなれば避難弱者であるが、小学校・保育園に参加を要請したのかというものがありませんでした。ジオパーク学習で子供は災害を学んでいると市長は言うけども、みずからの命を守る役に立つような訓練ができていないのではないかとこのところのご意見であります。事実確認をしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

上早川小学校と訓練参加について協議を、消防本部のほうでいたしております。訓練当日は休校日であるということから、児童は家族と一緒に住民避難の訓練に参加をいただき、学校職員が避難所で児童の安否確認を実施したところでございます。今後、学校・保育園・事業所にも参加いただき、訓練を実施してまいりたいと思っております。

また、災害を学ぶという点では、各学校において取り組んでおり、今後も学校、関係課と連携を実施してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ほかには、参加対象者や参加数の設定は、何を基準にしたのかわからないという意見もありました。上早川では、地元企業との避難の連携はできていたのか、地域住民みんなを避難させる計画であったのか、温泉が準備したバスに乗れる人数で避難所へ行く者の数を決めたのではないかという、そういうことで、これで果たして真剣な避難訓練と言えるかという意見をいただいておりますね。このあたりも、事実確認をしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

早川地区の両協議会長を通じまして、全住民を対象に参加をお願いしておりますし、バスの台数による人数制限等はいたしておりません。事業所等との連携につきましては、今後の訓練で実践をしてみたいです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

行政に明るい方からのご意見なんですけど、組織立てと担当者の働きについて疑問であると。

訓練の対象となった地域と、消防本部防災係の連携はあったが、市長部局の担当部門からの指導・助言はなかったと。市長部局と消防本部の連携ができていないのに、住民の共助と連携できていくのかという指摘なんです。

もしそうなら、真摯に受けとめ強く反省し、担当職員の指導をすべきだというふうに考えますけども、この点につきましても事実確認をしたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長（岩崎良之君）

防災につきましては糸魚川市の担当であり、窓口でありますのは消防本部でありますことから、消防本部で地元対応等を行っておったものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市の総務は全庁を統括する部署。しかし、そこが何の働きをしたのか、避難会場の体育館にいた

行政職員は、何をしたのか働きが見えなかったという声でありまして、災害はいつでも起こる、その防災と減災のために行う訓練には、職員が総力を挙げて早く準備し、当日の対応にも当たらなければならないと。

ところが、地域の説明から実施日まで、時間がなかったという段取りの悪さは、全庁一丸の取り組みとなっていないことの、1つのあらわれではないかというご指摘なんですね。なぜそうなのか、総務部長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

災害の対応については、災害対策本部を設置して全庁挙げて取り組むという考えであります。

今回の、日ごろの防災啓発につきましては、消防本部のほうが主に窓口になりまして、全庁連携の中で、今回の避難訓練を実施いたしております。

今回の避難訓練につきましては、噴火の警戒レベルを引き上げ、それに伴う市の対応の訓練。それから、住民の皆さんから避難経路・避難場所を確認いただく避難訓練、こういうものをあわせ持って実施をいたしました。

住民の皆さんからは、全体的な流れがちょっとわかりにくかったのかなという点での反省事項はございますが、今後、そのような訓練を重ねながら、住民の皆さんともども、安心安全の訓練となっていくように、今後とも重ねて訓練をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

訓練を重ねていくという答弁です。共助の、行政も一緒に考えていくんだということなんですが、住民の方にわかりにくかった訓練を幾ら重ねたって、何の訓練にもならないですよ。その反省というものがあつたのかどうかを、今ここで聞いてるんですよ。それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご承知のとおり、新潟焼山の噴火という1つの訓練をさせていただきました。これは、今までもやっておりましたが、しかし、今回は特にハザードマップが作成され、それに書いてあるこの避難というところに対して、本当にそういう形がとれるかどうか、そういったところが一番、やはり我々はこの訓練の中で重要視をさせていただいたところであります。

その中で庁内もやはり、そういう1つの今までのこの避難体系をとりながら、住民の皆様方も参加いただく中で、どれだけ多くの人たちが参加していただくかというところをあわせながら、それ

に対して我々は、受け入れ体制をどのようにとっていくかというような形をさせていただきました。

でありますから、これは全て完成形では、私はないと思っています。まずは、第一歩をやってみて、そしてそれに対してどのような不備なところがあり、また、それに対して対応しなくちゃいけないところがあるのか、そういった避難情報の位置はどうなのかというようなところも、やはり大きなところであったわけでございまして、全てこの満足のいく、私、十分に充実した訓練であるとは思っておりません。まずは、やはり第一歩をやってみた中での、これからの方向性を踏み出していきたいための、第一歩であったと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

災害が起きたときは、いや応なしですよ。それで、そのために訓練してるということだと思っ
んです。

それで私が繰り返し言うんですけども、住民のほうにわかりにくかった訓練の、その段取りをしたというところに反省はないのかということなんです。市長おっしゃるとおりですよ、第一歩なんです。改善していくんです。けども、そのために今ここで、何を反省しなければいけないかということを知ってるんですけど、まだ十分なご答弁はいただけてないように思います。もう一度、お願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答ひいたします。

そういったところの不備なところは、やはりこれから改善しなくちゃいけないと思ひますが、今までみたいに、全て災害が起きたときの避難というのはどうあるべきかというのを、事前に住民周知をしてて行う訓練、それは我々といたしましても、果たしてどうなのか。やはり臨場感を持った避難訓練というのが必要になってくるのではないかと、そういうところを頭に置きながらさせていただいておるわけでございまして、一部の人たちだけでは、やっておるわけではございませんが、そのようなふだんからの避難訓練が、これから必要になってくるんだろうと思ひわけでござい
ます。その辺も踏まえながら、今、させていただいておるわけでございまして、必ずしも同じよ
うな、以前と同じような形にはならないところがあるのではないかなと、私は思ひしております。

ただ、やはり共助の面というところにつきましては、そこまでは今回の訓練の中には、あまり重要視をしておりませんでした。ただ要するに、ハザードマップで、それでその体制がそれでいいのかどうか、その確認の訓練が一番大きい目的だったと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

私が、地域の方から聞いた声を自分なりに捉えてみますと、要は人と人とのつながりづくりというところが弱かったのではないかと。地域に入って、その目的をしっかりと伝えて、皆さんにどのように動いていただきたいのかということ、それを伝える行政の働きが見えなかったということ、それから当日の会場での職員の皆さんの働きが見えなかったということ、この点をやはり反省をしていただいて、今後につなげていただきたい。

市長から、今いただいた答弁。実現するために、今後どういうふうに、市の職員の皆さんのコミュニケーション能力ですとか、問題解決能力を向上させていくのかということ、じゃあ、手を挙げてくださってますんで、総務部長から最後にお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

全体的な流れは、先ほど私がお答えしたとおりでございますけれども、大和川小学校に避難、住民の皆さんから避難いただいた訓練のところにおきましては、ちょっと時間の使い方として、住民の皆さん方が待っている時間もございましたし、また、その間の市の職員は、事前に災害対策本部訓練をした後で、大和川小学校の避難の様子を、市の部課長が現地を確認にまいりました。

そのような連携の中で、もう少し時間の使い方として、訓練の内容を濃くする必要はあるのではないかというような点については、今後の反省点として、今後の訓練の中で生かしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

さて、私は、ジオパークの災害教育を4年前にも取り上げています。

世界ジオパークを名乗る糸魚川市民が、ジオと災害の関係性・災害発生の危険性を知ることが大切、市民理解は進んでいるかと問いました。

さらに、税金を使ってジオパーク事業を進める理由は、糸魚川で起こり得る災害への対応が進んでこそだ。逆に言えば、防災学習・防災体制が進まないようでは、世界ジオパークのまちを名乗る資格はないとまで申し上げました。

その後の働きは、動きは承知して評価しておりますけれども、4年間の取り組みや成果があれば、この機会に、市長、教育長、消防長それぞれから、お答えをいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

おはようございます。

お答えいたしますが、市立の各小中学校、地域の特性に応じて学習訓練を行ったり、あるいは避

難訓練を行ったり、防災の心構えを育てているというのが現状です。

「まるごと糸魚川」という資料集には、99ページに、糸魚川ジオパークを学習する皆さんへ、それから教職員の皆さんへということで、豊富な自然と、それからジオサイトの危険というものが、背中合わせであるというようなことまで解説しております。

平成24年からは、根知小学校が地域と一緒に、防災教育やキャンプを実施しておりますし、それからヘルメットは購入しておりますし、それから防災頭巾は地域の方々からつくっていただいたりとかしております。それから上早川小学校では、焼山ジオサイトを活用した火山災害の学習をしておりますし、その中での話し合いによって、どうしてもヘルメット、子供たちの安全のためにはヘルメットとゴーグルが必要であるというようなことから、それらの物を準備したりしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

当本部といたしましては、市の職員として、また消防職員として、また消防団員としてそれぞれの立場で、子供たちや地域の皆さんへお伝えできることを、今後も継続してお伝えしていきたいというふうに考えておりますし、その成果は徐々にではありますが、あらわれてきているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご承知のとおり、この世界ジオパークがユネスコの正式事業化になってという話であるわけですが、世界ジオパークは防災というものはございません。そういう中において、我々が2008年にジオパークを取り組むといったときに、ジオパーク委員会がこの火山もと言ったときに、私はやはり防災も入れるべきという形で防災を入れさせていただきました。自来、私はこの防災を、やはりジオパークの大きな位置づけするべきという形の中で、今、防災教育チャレンジプランの中の審査員にもなっておりますし、またそういった教育委員会もまた、その中にありますので、その中に加わらせていただいております。

そんなことから、地域の懇談会、またはいろんな市内の、このジオパークでの会合であったり、また昨日は、蒲原沢の災害の慰霊碑での参拝などするときにも、いろいろご質問に来られたときにも、やはりジオパークというものをあわせながら話をさせていただいております。

事あるごとに、我々は自分たちの住んでおるところを、しっかりと自然を把握することがこの減災につながるんだという話をさせていただいております。地域での懇談会の中にも、それを加えさせていただいて、説明をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川で起こるであろう、さまざまな災害への対応ということ、ジオパークの中から学んでいくということは大事なことでと思います。さらに、深めていただきたいと思います。

4年前と言えば、3.11東日本大震災の年ですが、その被害に国民・市民が震え、悲しみ、国の未来を心配いたしました。

糸魚川市では防災講演会を開き、市長が防災とジオパークを絡めてお話をされまして、糸魚川市大野区出身で、東北大学大学院地震・噴火予知研究観測センター教授の松澤 暢先生から、ご講演をいただきました。この講演で、地震・津波災害のメカニズムへの理解が進みました。

そこで私は、松澤先生のような出身者の力を、ジオパークと防災に生かすべきだと提言をいたしました。また、松澤先生をキーパーソンとしたシンクタンク機関を糸魚川に設置して、防災学習・ジオ学習・ジオパーク戦略を進めて、大学の研修会・ゼミ合宿・修学旅行の誘致に役立てまじょうと提言をしたと思います。市長、覚えていらっしゃいますか。

ジオパークがユネスコの事業に認定された今、その時期が来たのではないのでしょうか。改めて提言し、市長の考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、我々はやはりジオパーク活動につきましては、持続可能なまちづくりにつなげていきたいということの中において、修学旅行、また学習・研修旅行を入れさせていただいておる部分があります。そういう中で、今、ご指摘のような、やはりここで学びたいという魅力づくりをしていかななくてはいけない部分があるわけであります。

そういった中においては、今、ご指摘の松澤教授あたりは、非常に知名度もあると思っておりますし、またそういう方々がやるからこそ、また説得力もあるんだろうと思っております。そのように、今、我々、学芸員もかなりそういったところが、ジオパークの目指すところや、ジオパークを注目をするところにおいては知名度が高いわけですので、そういったやはり我々、利用させていただける人材があれば、そういうものを使いながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市長の今のご答弁は、発展させる形というふうになるんでしょうかね。

次の質問の3で、若者の就労ということ聞いていくんですけども、そのジオパークの防災ということ、それを糸魚川でも仕事にしたい若者というものを、今後、つくれないのかなということ、今の市長のご答弁で、私、考えたんですけど、市長、その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

大地を学ぶ人たちがふえておることは、間違いございません。しかしながら、今、活躍する場が少ないのが現状でございます。そういう中においてはやはり、いろいろ研究される方においては、ぜひともそういう地形の合ったとこで、そして災害に対して説明できるというのが、一番やはり、市民の皆様方や住民の皆様方が関心が高いわけでございますので、そういうやはり、見出しを出して集めることが非常に私はいいと思っておりますので、そういう研究者が出るかどうか、またそういった興味を持つ方がおられるかどうかは、やはりこれから探しながら、そういったことで防災や減災につながるということになれば、非常に多くの人たちに注目をできるだろうと思っておりますので、ちょっと研究してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そういう流れの中で、質問3の2回目の質問に移りたいと思います。若者の仕事づくりということ

とです。系魚川の特性を使って、若者の仕事をつくり定住を促すには何をすべきかとの問いに対して、先ほどご答弁をいただきました。

さて、それをやり遂げる主体はどこか、リーダーは誰か、そして責任はどこにあるかということについてなんですけども、市長がリーダーということによろしいですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

全ての、やはり責任は私にございますので、逆に考えればリーダーシップをとるのも、私がとれば一番いいのだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

少し、記事をご紹介したいと思います。

株式会社ローカルファースト研究所の関 幸子さんが、昨年ネットでアップした記事に、タイトルは「地域創生を担う地方自治体の役割は大きい」ということで、人口減に直面する地方の活力を高めるために何をやるかということの1つに、創業への環境整備がある。高校や大学を卒業した若者のうち、地元に残りたい人がいるにもかかわらず、就職先がないことが人材流出につながって

る。今後、雇用先として期待できるのは、農業・林業等の、従来もうからないとされてきた1次産業の高度化である。規模の拡大や所有と利用を分離するなど、経営手法の合理化によって新たな市場形成が期待できる。あわせて、6次産業化も進め、地域と都心をつなぐことによって、雇用確保を図る。都市と地域との人材のマッチングを図る人材プラットフォームや、住宅支援機能等を強化するなどの手法は有効だ。また、地方創生に必要なのはお金と人だが、地方に不足しているのは予算でなく人材だとも、関さんは書いておられます。

糸魚川市では、このことをどう理解し、戦略を立てていこうとしているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

糸魚川ジオパークの地域特性から生み出されます、農産物・林産物・水産物、これら1次産業と製造業とが連携することによって、それぞれの知識・技術を持ち寄って、共同開発することができるというふうに考えております。また、それぞれの生産システムを合理化することで、企業組織も形成されて、そこに雇用が生まれるというふうなことが理想だと思ってます。

いずれにいたしましても、そういうことの事業連携・創出・雇用が生まれるということについて、地方創生の総合戦略を、絵に描いた餅にならないように具体的に事を動かすということが大切だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

高校や大学を卒業した若者のうち、地元で働きたい人がいるにもかかわらず、就職先がないことが人材流出につながっていると。このことについて、教育長と産業部長、どういうふうにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

糸魚川市で推進している一貫教育の中に、ふるさと愛育成教育というのがありますが、それだけではやはり、なかなか就業につながってはいかないだろうと考えております。

キャリア教育を推進する流れの中で、やはり海洋高校のように地元企業と協力し、そして起業していく。そういう若者の力を育てるということが、今後、必要になってくるのかなというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

産業部長（斉藤隆一君）

総合戦略の頭には、「まち・ひと・しごと創生」という文字がついております。総合戦略のやはり大きな柱は、簡単に言えば雇用ということだというふうに認識して、今回の総合戦略の作成に当たってきたところであります

ただ、議員の言われるように、高校だけに限らずでありますけれども、大学卒も含めまして、また、それ以外も含めましてでありますけれども、ここ数年間の糸魚川市の有効求人倍率は非常に高い数字で推移してきていることは、田原議員もご存じのとおりだと思っています。特に糸魚川の場合、国とか県に比べまして数年間ずっと、糸魚川は高い。しかし、求人と求職のミスマッチが起きているというのが、糸魚川市の現状だと思っています。必ずしも働く場がないということではなくて、働く場はあるんだけど、結果的には就職したい者と求人をする側の、やはりミスマッチが起きているということでもあります。

これは現状でありますけれども、そういったことも含めて、やはり総合戦略の中でうたっておりますように、創業も含めた地域産業の育成支援ということと、第1次産業にも、当然、雇用の場が生まれてくるという観点でありますので、6次産業化も含めた第1次産業の活性化、経営の活性化というところが、今回の雇用、総合戦略の中での雇用拡大につなげていく一番大きな分野ではないかなというふうに捉えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今後、教育行政と労働行政との連携をつくる策を練るための、プラットフォームというものがしっかりとつくられていくことが必要というふうに考えます。

幸い、海洋高校の取り組みが成果を上げております。評価をされております。この機会に、ご紹介いただければと思いますがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

糸魚川市水産資源産学官連携事業、これは企業家精神の育成と地域振興を目的として、取り組んでおります。新しい産業教育にチャレンジする、海洋高校を支援してまいりました。

海洋高校では、シーフードカンパニーというお店から、サケの魚醤「最後の一滴」を販売するなど、活躍をさせていただいておりますし、また11月19日には、農林水産省が立ち上げました「フード・アクション・ニッポンアワード2015」におきまして、審査員特別賞を受賞したわけでありまして、審査員特別賞といいますのは、審査員の皆さんからの推薦があって受けられるということでありまして、ほかの賞とは一部違うというところがございます。また、高校が受賞したといいますのは、2013年に宮城県の高校が受賞して以来だというふうに認識しております。

また、海洋高校の久保田校長が、12月19日に文化協会の10周年の設立総会でご講演をいた

だいて、「高校がお手伝いするまちづくり」というふうなお話もいただけるということも聞いております。

またさらに、日テレのテレビ局でありますけども、今週から「青空レストラン」、これは宮川大輔さんがテレビに出る「青空レストラン」でありますけども、これの取材に高校に入ると。19日の土曜日には放映されるというふうなことで、幅広く取り組みが情報発信されているという状況であります。

いずれにいたしましても、私も3年前に、海洋高校の生徒とかかわらせていただきまして、三重県の相可高校に行ったわけでありますけども、その際に、1人の男子生徒が向こうの高校生と顔を合わせても、一言もしゃべれなかった男子生徒が、ことし3年生になってキャプテンをやって、都会へ行って、品物を売ってどんどんとしゃべってPRしているという、高校生の成長を見たときに、本当にうれしいなというふうに考えております。そういう子供の成長と企業連携とが、今後、ますますマッチングできるように支援していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

1次産業の高度化と、ものづくりと環境とビジネスモデル教育が、立体的かつ有機的につながった、そして花開いたすぐれた事例だと思えます。この流れが、ほかの高校にも影響して、中学から高校の6年間の教育の中で、地域ビジネスモデルを学び、やがて地元でのさまざまな業種での就労に結びつくといいというふうに考えますけど、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

高校の例につきましても、先ほど答弁のあったとおりであります。

他の高校でも、キャリア教育には取り組んでおります。地元企業の方を講師に招いて講演会を行ったり、職場体験、また修学旅行の際に、関西や東京の企業訪問をしたりといったような活動もしております。

高校で、海洋高校のように起業する、先ほど教育長の答弁がありましたが、起業する力というもの育てるキャリア教育は、これから必要になってくるのではないかなと思っております。海洋高校の、大変よい例がありますので、それを参考に各校で取り組みができないか、各校長と協議をしていきたいと思っております。

海洋高校の取り組みについては、起業するというようなことのもう1つほかに、子供たちのコミュニケーション能力が高まっているなというふうに、私も感じました。私も昨年、一緒に三重県のほうに、海洋高校の生徒と一緒に行かせていただいたんですが、一生懸命に三重県の方々に製品の紹介だけでなく、糸魚川市ってどこにあるのかということも、また地図を持ってきて説明をしたりとかいうふうに取り組んでいました。そういった主体的な活動が、子供たちのコミュニケーション

の力を育てるといふふうに考えますので、そういった面からも非常に有効だといふふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、食のブランド推進や東京都心での販路の拡大についても伺いたいと思います。

糸魚川の水産資源はブランド化されたものもありますけども、今、シーズンのアンコウですけども、この食のイベントが糸魚川の知名度を上げるものとして地元だけでなく、東京都心でも定着してきましたが、これら地域と都心のつながりを、若者雇用にどう結びつけていくかという点について、お考えのことがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、ご紹介のありましたアンコウでありますけども、これも、なりわいネットワークが首都圏に行って、商談会の中から縁ができたお店、創業約80年を迎えるというアンコウ鍋のお店で、「いせ源」さんというところでございますけども、そこの取引が、今、進んでおります。約年間1,000キロ、1トンのアンコウが首都圏のほうへ送り出されているということでございます。

それが、本年の9月になりまして、いせ源さんの社員旅行として産地の糸魚川に、20名ほどおいでいただきました。アンコウが漁獲される現場、それ以外にも糸魚川の市内の生産地を見学いただいて、非常に感動を受けて帰られました。特に、デンカで飼育されてますウナギの現場も見られて、非常にびっくりされていかれたということでございます。

なりわいネットワークの、首都圏での商談会の小さな芽が吹いてきたんだなというふうな受けとめておりますけども、そういうところから、市内の企業が大きくなって、雇用につながっていただきたいなというふうな、期待しておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

つながりづくりは、なりわいネットワークだけじゃないですけどね。

海洋高校の取り組みについては、東京の墨田区議会も視察に来るそうですけども、その経緯について、また、どのようなことを視察・調査していかれるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

東京墨田区の634まちづくり団体とは、私も昨年、交流会に参加をさせていただきました。ま

たその後、六三四塾のほうのまちづくりのセミナーに、海洋高校のほうもプレゼンターという格好で参加をし、また、そのほかにも押上つながりから、この活動が注目されたんだというふうを受けとめております。

当日は、庁舎のほうで簡単に糸魚川水産資源の産学官連携事業の説明をし、その後、海洋高校を見学いただき、シーフードカンパニー能水商店も見学いただいて、1日の行程が終わるというふうな計画で、今、取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

墨田区とのつながりを、都市と地域との人材のマッチングを図るプラットフォームにして、若者就労に結びつけていただきたいと思います。

次に、質問のアプローチを変えまして、若い方に糸魚川に関心を持っていただくことについて伺いたいと思います。

糸魚川21クラブの同志、伊井澤一郎議員が生前、地元の用水に見られるバイカモを大切に、このきれいなバイカモときれいな雪解け水を、糸魚川の環境のシンボルとして生かしたい。農業や環境に関心のある都会の若い人に見てもらって、糸魚川のよさを知ってもらいたいと話をされていたことを思い出します。

大きなヒントになると思います。バイカモがどのようなものか、環境生活課長に伺いたいと思います。また、都会の若い人に伝えて、糸魚川に来ていただくにはどうしたらいいか、これは交流観光課長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

バイカモにつきましては、清流中に生育しているものであり、特に初夏から初秋にかけて、梅の花のような白い花を水中につけている水草でございます。市内では西海地区の釜沢用水や、上早川地区の大山用水のほうに、多く生育しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

若い人に、糸魚川を知ってもらおうという取り組みでありますけど、まず、小学校・中学校の若い人ということで、首都圏での学校、都立中学校、また東京・神奈川・埼玉の私立高校のほうにパンフレットを送りまして、ぜひ、糸魚川に教育旅行に来てくださいといった取り組みをしております。また、そういった校長先生方のモニターツアーを実施しております。

そうした結果の中で、教育旅行はふえているわけですが、そうした子供たちを通じて、糸魚川を知ってもらって、さらに来てもらうといった取り組みを進めていきたいと思っております。

また、SNSを使った情報発信ということで、フェイスブック等を使いながら、若い人たちが結構見てらっしゃるわけですので、そういったものを使う中で、糸魚川を知ってもらって来てもらって、さらには糸魚川に住んでもらうといった取り組みにつながるようなことを、続けてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

わかりました。

糸魚川の環境のよさを、より知っていただいて、課長おっしゃったとおり、糸魚川に来て住んでもらうという、そういう気持ちになっていただくような取り組みを、これからも続けていただきたいと思います。

林業では、地場産の杉材を使った寄木細工パネルの工場ですとか、木地屋集落でのアーティスト・イン・レジデンスですとか、中山間地の学校跡地での木質バイオマス発電所の建設と雇用など、林業をものづくり・環境・エネルギーとコラボさせて若い人の仕事づくりを進めることは、糸魚川でやるべきことだと私は考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

本年になりまして、木質バイオマスなどの研究会というものを地域振興局、それから糸魚川木材連合会、糸魚川市、関係機関の中で、研究会を発足させました。

勉強会をしながら視察、これは福島のほうにおけますバイオマス発電、これは地方創生フォーラムもあったものですから、視察をいたしました。また、長野県の飯綱でのバイオマス発電などの森林資源の有効活用を勉強してきております。

これらの糸魚川における、もう伐期を迎えております森林資源を、川上から川下の中で有効に活用していこうということの取り組みを、関係機関と今、進めておるところであります。

また、クラフトフェアにおきましては、能生マリンドリームから今回、ことしから美山公園で開催していただくことになりまして、また、新たな魅力の発信につながっていくんだろうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

クラフトフェアもそうですけど、木地屋集落でのアーティスト・イン・レジデンス、この辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

それにつきましても、貴重な資源でありますし、貴重な人材だというふうに考えておりました、もう少し情報の発信に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

きょう、もう1つの提案は、青年会議所が企画しました「7月7日は笹ずしの日」のイベントを、さらに生かそう、使おうというものでありまして、きのうビーチホールまがたまで、徳島県上勝町で若者がアイデアを出し、高齢者をマネジメントして成功した「葉っぱビジネス」のテーマの映画、「人生、いろどり」が上映されておりました。

この例に学べば、糸魚川の裏山にあるササや葉っぱの上に、美しい米のご飯と海と山のおいしい物を盛りつけ、パッケージのデザインを工夫して売る。農業と林業と水産業、ものづくりのコラボレーションを行う。そういった笹ずしを、糸魚川の各地の特色を生かした笹ずしを並べて、もっともっと活用すべきではないかというふうに考えますが、市長、この辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々、自然が非常に多く、大地が非常に広くあるわけでありますので、いろんなものを生かせる部分があるかと思うわけであります。

今、ご指摘の点についても、全く我々といたしましても、食文化という昔からあるものをつなげていくということが、非常にまた、この特徴のある魅力のあるものになっていくんだらうと思うわけでございますので、もう一度、今、笹ずしは笹ずしとして、それを立派な1つの商品とさせていくことが重要でありますし、まだまだそういうものが、潜在的に眠っているのではないかなと思っておりますので、そういった掘り起こしをしながら、この我々の長く培ってきた文化、そして自然の資源を生かしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そういったものを生かして、いかに若い人の働き場をつくるかということがテーマなんですけど、その点についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、そういったところが、少しずつ開いてきているのではないかなと感じるのは、やはり今、6次産業化の中においても、そういった今、動き始めておるわけでありまして。そういったところを、今、若い人たちが雇用が始まりますし、そういったところを突破にしていくこともできるし、今、やはり能水商店が動いておるところも同じだろうと思っておるわけでありまして、少しずつ今、開いております、例えば徳合においても、そういった機運も高まってまいっております。そういったところを、広げていきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今回は、糸魚川の若い人の仕事づくりの質問を重ねてきました。

私は、若い人の想像力、イマジネーションとクリエイティビティ、そして行動力に期待し応援をしています。今、糸魚川にいる若者、これから育つ若者、そして今まだ、ほかの場所にいる若者が、明るい未来の糸魚川をみずから考え、みずからつくるために、大人の私たちは何をすべきかをいつも考えています。

ただ、世代のギャップ、価値観や技術力の違いがあります。ありますが、そこを埋めてくれるのが糸魚川の自然やおいしいものを一緒に味わったり、祭りやイベントを楽しむことだったりするわけです。ですから、糸魚川の持つ魅力を全国の若い人たちに伝えて、糸魚川に若い人が来てくれる仕組み、働きに来てくれる仕組みづくりに全力投球すべきだと思います。市長、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全くそのとおりだと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

やるべきことは、さまざまあります。まず、若い人の生活に欠かせない便利な通信環境、そして清潔な設備がある気楽に安く使える住まい、地元の人との交流の場を準備して、市内の気に入ったところに滞在しながら、糸魚川での働き方を考えてもらう。糸魚川での未来の働き方を提案してもらい、チャレンジしてもらおうと。私たちはそのサポートを徹底的に進める。

実は、こういった取り組みは、既にほかにあります。ありますので、そこに負けない環境整備を

して、若い人たちに糸魚川の魅力を伝え、足を運んでもらう。それが今、行政が最優先でやるべきことの1つだと思います。その仕組みについては、次回も質問し提言したいと思います。終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一です。

発言通告に基づいて1回目の質問をさせていただきます。

1、北陸新幹線えちごトキめき鉄道及び路線バスについて。

(1) 北陸新幹線沿線の騒音・振動について。

試験走行から1年、開業から9か月が経過しようとしております。既に解消されていなければならない課題と思いますが、これまでの経緯と現状、鉄道・運輸機構の対応と今後の市の対策について伺います。

(2) 北陸新幹線糸魚川駅開業2年目に向けての利用促進策について伺います。

(3) えちごトキめき鉄道について。

発表された上半期の経営状況と現在の課題について、市の考えを伺います。

10月に行われたトンネル内での避難訓練について、その内容と市のかかわりについて伺います。

(4) バスの利用促進について。

過疎化・高齢化地域の路線維持対策として期待される、路線バスで宅配便を輸送する「客貨混載バス」の導入はいかがでしょうか。

JR東日本及びJR西日本は北陸新幹線にスキー・スノーボードを置くスペースを設置するそうですが、その内容と市内スキー場への2次交通としてのバスの対応はいかがでしょうか。

県では団体貸切バス値上がりによる観光客減少対策として緊急支援を打ち出しましたが、市内での反応及び市の独自策の考えはいかがでしょうか。

列車との接続時間について利便性はいかがでしょうか。

2、農業政策について。

(1) TPP（環太平洋連携協定）の大筋合意について、地域農業への影響を市はどのように捉えているか伺います。

関税撤廃の例外とされた農業重要5項目の約3割が撤廃の対象となったことについて。約8万トンの米の輸入枠について。

政府・与党が示した耕作放棄地の固定資産税を現行の1.8倍に強化することについて。

(2) 糸魚川市の農業の現状について伺います。